



第2回 北村西望生誕地現代彫刻プロジェクト開催!!!

FROM LIFE

第2回 北村西望生誕地現代彫刻プロジェクト
a contemporary sculpture project in seibo kitamura's birthplace フロム ライフ

<前回の展示作品>



《切頭平行六面体のある机》



《怪物と少年》



《ウキウキウキ》



《鳥の丘》

2006年3月31日から南島原市として新たにスタートした南有馬町は、島原の乱の舞台となった地として歴史的にもその名をとどめており、長崎平和祈念像の作者、彫刻家北村西望の生誕地でもあります。2004年には、国内外から現代彫刻家12名が参加し、「第1回北村西望生誕地現代彫刻プロジェクト《interdependence. -Cのかたち-》」が開催されました。開催2回目となる今回は、《FROMLIFE》をテーマとします。「LIFE」はまさに現代が抱える大きなテーマであり、「生活」や、「生きること」、また「命」という意味を含んでいます。南有馬町の自然や歴史は、「LIFE」が濃縮されていて、この地を訪れた人はこの町の「LIFE」を強く実感するでしょう。参加作家は、それぞれが感じた「LIFE」をテーマに作品を制作し、展示エリア各所に作品を点在させます。また、展覧会と併せて小学生を対象にしたワークショップも開催します。「とび出す巨大マップ!」と題し、展覧会開催エリアの巨大地図を、粘土や、段ボール、拾った貝殻、小枝など、様々な素材を自由に使い、協力し合って立体化させていくプログラムです。(ワークショップの参加は後日、募集要項を掲載します。) その他も、参加作家が自らの作品やこれまでの活動をスライドで紹介しながら地域の方々と交流を図る「スライドショー」や、作品搬入から設置までの様子を公開する「公開搬入」も併せて行います。

南島原市が掲げる「南向きに生きよう!」というテーマと展覧会のテーマ「FROMLIFE」をリンクさせ、子供たちが表現する「LIFE」と展覧会参加作家が表現する「LIFE」、この二つの相互作用によって、また新しい南有馬町の景色が見えてくるでしょう。

- 催事名…第2回北村西望生誕地現代彫刻プロジェクト
「FROM LIFE」(フロムライフ)
- 主催…南有馬現代芸術プロジェクト実行委員会(原城観光協会内)
- 会期…2006年11月3日[金・祝] - 11月30日[木] 10:00-16:00
- 開催地…南島原市南有馬町内エリア(会期中無休・入場無料)
- お問い合わせ…南島原市南有馬総合支所内
南有馬現代芸術プロジェクト実行委員会
電話:050-3381-5170
ホームページアドレス: <http://minamiarima-ap.jp/2006/>

布津 ありがとうございます!
“湯楽里”20万人来場達成



7月31日、布津保健福祉センター(湯楽里)の来場者が20万人を達成し、松島市長がかけつけ、お祝いの花束や記念品をおくりました。20万人目のお客様となったのは、島原市の前田 艶さん(88歳)・信隆さん(63歳)親子で、「宝くじも当たったこともないし、くじ運は悪いと思っていたところ今回は幸運です」とうれしそうに話されました。

信隆さんは、現在関東在住で、月に一週間ほど島原へ帰省されており、その間は毎日艶さんといっしょに“湯楽里”へ。お風呂が大好きな艶さんは、手術しなくてはならなかったヘルニアがよくなったそうで、その効能は折り紙つき!?です。

平成16年4月1日にオープンしたこの温泉は、平成17年7月に10万人目、今年の1月に15万人目を迎え、今回の20万人目の節目となりました。

原湯100パーセントの天然温泉の泉質は、ナトリウム塩化物塩泉で神経痛や関節痛などに効能があります。継続的に入浴すると効果があるようですので、未体験の人はぜひご来場ください。



▲20万人記念にニコリの前田さん親子

加津佐 福祉活動理解のために
ボランティア協力校ワークキャンプ



▲手話で『おはようございます』はこんなふうに

7月27日(木)~29日(土)まで、加津佐総合福祉センター「希望の里」において、加津佐町内の小学生が参加するワークキャンプが開催され、視覚障害などについて学びました。このキャンプは社会福祉施設の入所者などとの交流をはじめとする様々な体験学習や実践活動を通して、児童や生徒たちに福祉に対する理解を深めることを目的とし、毎年開催されています。今年は小学校5・6年生が参加し『アイ愛会』(視覚障害者団体)の皆さんといっしょにちらし作りをしたり、「視覚障害者を学ぼう」と題し、アイマスクをしての行動体験や、点字盤・定規・点筆を使った点字体験をしました。

参加した児童は、根気のいる点字の打ち込み作業に「指が痛くなった」「見えているときと目かくしをしたままでは(同じ作業でも)勝手が違う」などと感想を話していました。

今回の体験は、それぞれの立場にたって考えることができるようになる訓練のひとつとして、とても良い機会だったようです。この体験で“暗闇”を体験し学習した子どもたちの目はみんな輝いていて、“明るい社会”実現を予感させるものでした。



▲点字ってむずかしそう…